

会員各位

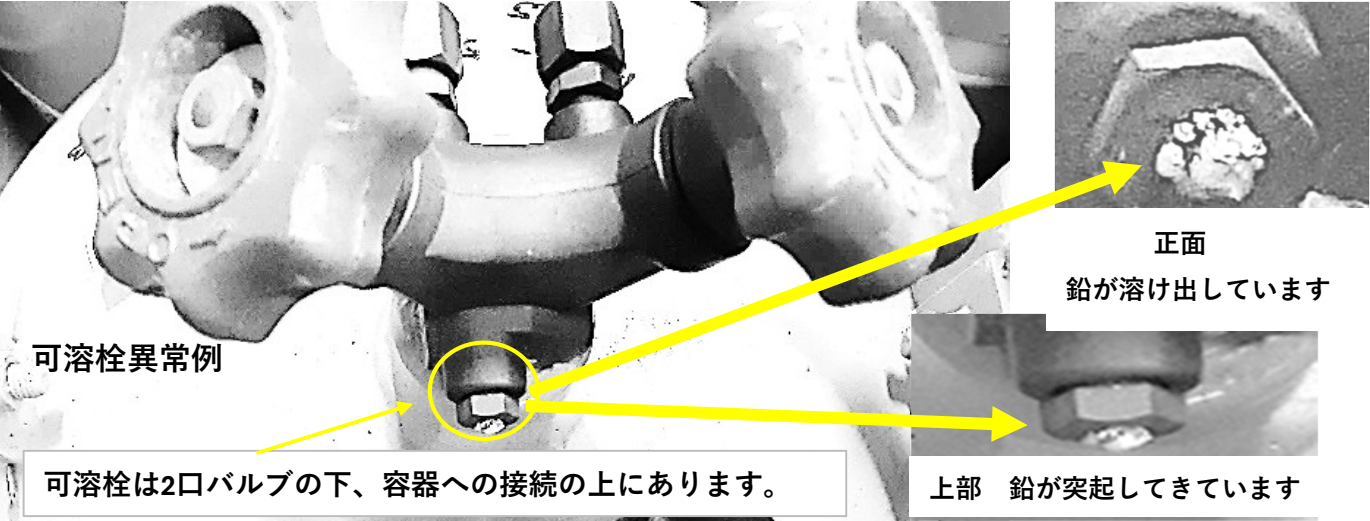
(一社) 静岡県フロン回収事業協会
本部事務局

夏場のフロン回収時の留意事項

1.回収容器可溶栓作動によるフロン漏洩にご注意ください。

回収容器可溶栓は56℃～60℃の間で溶解し初めます。(回転容器共通)

✓回収前にチェック：可溶栓変形等の確認を実施をしてください！



- 【参考】
- ・変形等がある可溶栓は溶解温度前に圧力変化等も起因し、漏れに至る場合があります。
 - ・炎天下の作業時、回収容器にも陽があたらない工夫が必要です。作業中の漏洩事例も発生！
 - ・直射日光にさらされた鉄は80℃程度まで上昇する可能性があります。（保管、運搬時も注意）
 - ・夏場の車内温度は30分で45℃を3時間後には55℃まで達したという試験データがあるようです。

2. 重量で管理し回収する場合
許容充填量と安全な充填量の目安（液封事故防止等）

✓回収容器への上限充填量は許容充填量①の90%②※を推奨します。

（回収秤や回収設置状況での誤差、夏場の容器周囲温度環境、作業者の熟練度等を考慮）

種類	耐圧区分	※充填定数 (C)	①許容充填量 (V/C)Kg 容器保安規則 充填量上限	②※(①×90%) Kg 推奨充填量上限	①許容充填量 (V/C)Kg	②※(①×90%) Kg
			V21(内容積21L)		V23.5(内容積23.5L)	
R22	FC1	0.98	21.43	※ 19.29	23.98	※ 21.58
R410A	FC3	1.138	18.45	※ 16.61	20.65	※ 18.59
R407C	FC2	1.025	20.49	※ 18.44	22.93	※ 20.64
R404A	FC2	1.149	18.28	※ 16.45	20.45	※ 18.41
R32	FC3	1.234	17.02	※ 15.32	19.04	※ 17.14

※充填定数C = 2023年7月RRC冷媒処理技術2 8ページから引用。但しR32は1.05/比重(液) 0.85077で算出。

3. 容積で管理し回収する場合（主にフロートセンサー内臓の回収容器）

✓温度変化での膨張率を考慮し内容積の80%で作動する容器を推奨します。

- 注記1. 記載の値は40℃以下の風通しのよい環境での取り扱いが前提です。（容器保安規則による）
- 注記2. 回収機センサーケーブルを必ず接続して下さい。安全装置の短絡は危険です。